

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	平成28年度第2回地域保健計画推進部会				
開催日時	平成29年2月24日(金)午後7時00分～8時45分				
開催場所	いきいきプラザ2階学習室				
出席者 及び欠席者	<p>●出席者：</p> <p>(委員) 小杉眞紗人部会長、嶋原健二副部会長、川崎由香里委員、橋本健一委員、杉本美恵子委員、和田恵子委員、武者吉和委員、水戸部瑞江委員、藤原幸博委員、田所徳雄委員、池本昇委員、高橋照定委員、浅谷哲也委員、森田明美委員</p> <p>(市事務局)</p> <p>【健康福祉部】 河村次長</p> <p>【健康増進課】 空閑課長、江川課長補佐、小澤課長補佐 原田主任保健師、後藤主任保健師、荻野主任保健師 内村主任歯科衛生士、松田主任管理栄養士</p> <p>【地域福祉推進課】 新井課長、大塚計画担当主査</p> <p>【保険年金課】 菅野医療費適正化担当主査</p> <p>【子ども家庭部】 田中次長</p> <p>【子育て支援課】 榎本課長、齋藤母子保健係長、 大熊主任保健師、橋本保健師、大塚保健師</p> <p>●欠席者：曾我部多美委員、森田徳子委員、橋本政紘委員</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由		傍聴者数	なし
会議次第	1. 開会 2. 挨拶 3. 議題 (1) 「地域福祉計画」基礎調査報告書(案)について ○一般分野について ○母子分野について (2) グループインタビューについて ○健康分野について ○母子分野について (3) 「第4次地域保健計画」・「健康ひがしむらやま21」及び「母子保健計画」進捗状況について 4. 報告 (1) 平成29年度の予定について (2) 平成28年度新規の事業報告について 5. その他 6. 閉会				
問い合わせ先	健康福祉部健康増進課成人保健係 担当者名 小澤 電話番号 042-393-5111(内線3219) ファックス番号 042-394-7399				

会 議 経 過

1. 開会

2. 挨拶

(健康福祉部次長)

本日はご多用中にもかかわらず、当部会にご参集賜りまして感謝申し上げます。

先般、東村山市の来年度の予算(案)が固まり、予算総額として530億という大きな金額となっている。そのうち健康福祉部門、子育て部門を含めた民生費という費目が280億で、総予算の53%過半数以上、非常に大きな予算となっている。その中の一つとして、今、市の方で大きく目標として掲げているのが「健康寿命の延伸」である。「介護にならずに健康でお暮しいただく期間をいかに長くしていくか」これが至上の命題となっており、それには生涯にわたる健康づくりをいかに支援していくかという視点が肝要であると考えている。そういった意味ではこの部会は、これを検討しうる根幹の部会であると認識させていただいているところである。本日は忌憚のないご意見、そしてご協議よろしくお願ひしたい。

(健康増進課長)

会議資料確認、欠席者報告がされた。また、「会議公開に関する取扱」の説明と、傍聴の定めの変更について説明(これまで住所、氏名を記入して入室することになっていたが、住所、氏名を記入せず傍聴ができることになった)がされ確認された。

3. 議題

●部会長

効率的に会議を進めていきたいと思ひますので、ご協力よろしくお願ひしたい。

(1)「地域福祉計画」基礎調査報告書(案)について事務局より説明

○一般市民調査の健康分野について 資料1を基に説明

●事務局

一般市民調査は、18歳から64歳の市民1,500人を無作為抽出し、郵送により調査票を配布・回収した。回収結果は、回収数621、回収率は41.4%であった。

報告書の内容としては、P11(2)年齢について回答の多かった年齢は、「50歳以上」が最も多く263人、次いで「40歳から49歳」176人で、回答者の70%以上がここに入っている。

P12(4)居住年数については、東村山市に「住み始めて20年以上」が259人と最も多く、次いで「住み始めて10年から20年未満」が183人と、住み始めて10年以上が7割を超えている。

P13 家族構成については、「2世代世帯(親と子)」が407人と最も多かった。

P14Ⅱ健康に関すること(1)日頃の健康管理について問6①規則正しい生活はできていますか。問6②睡眠はとれていますか。P15問6③休養はとれていますか。問④バランスの良い食事はとれていますか。はどの項目についても「十分できている(とっている)」「まあまあできている(とっている)」が非常に多いという結果が出ている。P16問6⑤適正な体重を維持できる食生活を心がけていますか。についても「十分心がけている」「まあまあ心がけている」で7割を占めていることから、総じて健康について日頃から意識をしていただいていることが見てとれる。

P17問6⑥毎日の生活の中でイライラや精神的なストレスを感じる事があります

か「たまに感じる」が52.8%「しばしば感じる」26.2%と多い。家族構成でみると、一人暮らしで「しばしば感じる」の回答割合が多くなっている。また、夫婦のみ世帯では、「ほとんど感じない」が多く、「しばしば感じる」が少なくなっている。

P18 問 6⑦お酒を飲みますかについて「飲まない」が32.4%「時々飲む」41.2%「ほぼ毎日飲む」22.2%ということで、約6割のかたがお酒を飲むと回答している。

P19、お酒を飲むかたの中で、適度な飲酒量の目安と比べてどのくらいですかについては、「少し適量を上回っている」23.6%「適量の3倍以上飲んでいる」が5.1%の回答だった。これについては、前回の調査では「少し適量を上回っている」が24%、「適量の3倍以上飲んでいる」が8.7%で、前回より数値が下がっているのが見て取れる。

P20 問 6⑨たばこを吸いますかについて数値的なところは前回とそれほど変わらないが、回答の下にある問 6⑥イライラや精神的ストレスの関連の表をみると、「毎日吸う」かたについては、ストレスを「しばしば感じる」の回答割合が全体平均より高くなっている。

P21 問 6⑩自分の歯は何本ですかについて「24本以上」で8割以上を占めている。「20から23本」と合わせると9割以上ということで、歯科医師会、かかりつけ歯科医の推進が反映されているのではないかと推測される。

P22 問 6⑫血圧・血液検査等の健康診査を受けていますかについて、「年に1回以上受けている」が66.2%という回答が最も多い。P23 年齢別にみると50歳以上のかたが、「年に1回以上受けている」と「通院時に時々検査している」の回答が全体平均より多くなっている。ただ、18歳から29歳と30歳代の若年層では「忙しいので受けない」が1割前後を占めている。

P26 (2) 自分の健康状態 問7 あなたはご自分の健康状態をどのように感じていますかについては、「よい」「まあよい」と感じている人が8割以上となっている。家族構成別にみると、夫婦のみ世帯と3世代世帯、その他世帯で「よい」の回答割合が全体平均よりも多くなっている。

P28 (3) 健康のために心がけていること、問8 健康のためにどのようなことを心がけていますかについては、「野菜を多く摂るようにしている」65.1%、「朝食を必ず摂るようにしている」62.3%、というところから食事や栄養に心がけていることが見て取れる。

P29 (4) 保健・健康づくりに関して欲しい情報、問9 保健・健康づくりに関してどのような情報が欲しいですかについては、「食事や栄養に関する情報」28.3%となっているところからも食事や栄養に関心が多くなっている。

P30, 31 (5) 問10 かかりつけ医(主治医) (6)、問11 かかりつけ歯科医、(7) 問12 かかりつけ薬局・薬剤師はいますか、かかりつけ医「いる」49.3%、かかりつけ歯科医「いる」61.8%、かかりつけ薬局・薬剤師「ある」34.1%となっている。前回調査から比べ「いる(ある)」が増加していることから、市でかかりつけ医等の重要性について啓発をおこなってきた効果が出てきているのではないかと推測される。

P32 (8) 健康に関する考え方について、問13 (ア) 自分の健康は自分で守るものだ(ウ) 自分の健康に気をつけて、将来、介護が必要にならないようにしたいは、「そう思う」「まあそう思う」と合わせてどちらも9割台のかたが肯定的である。

○一般市民調査問14以降について資料1を基に説明

P48 (5) 地域での各活動、問22 あなたは地域活動や行政サービスの情報をどこで手に入れますかについては、「市報」という回答が最も多く64.4%、年齢別にみると

18 歳から 29 歳で SNS が 1 割を超える回答となっている。

P54 (2) 日ごろ困っていることや悩み問 26 あなたが、日ごろ困っていること、悩みを感じていることはありますかについて、「将来に対する不安」が最も多く、「家族の健康や介護に関すること」「仕事（学校生活）に関すること」「子育てに関すること」も前回調査から増加している。性別でみると、2 番目に多い回答は、男性では「仕事（学校生活）に関すること」であるが、女性では「家族の健康や介護に関すること」となっている。

P64 (3) 福祉サービスに関する情報の入手程度、問 33 あなたは、福祉サービスに関して必要な情報をどの程度入手できていると思いますかについて、「どちらとも言えない（またはわからない）」という回答が最も多く、前回調査と比べると「入手できている」が 2.8 ポイント増加し、「入手できていない」は 4.1%減少している。P72Ⅷ今後望まれる施策など (1) 重要だと思ふ保健・福祉施策、問 37 今後、東村山市において特に重要だと思われる保健・福祉施策は何ですかについて、「夜間・緊急のサービス体制の充実」が最も多く、前回に引き続き重要であると考えられている。説明は以上。

●部会長

今の事務局からの説明及び事前配布された資料をお目通しいただいていると思うが、ご質問、ご意見あるか。

●部会長

ざっと見て、P65 (4) 介護保険のしくみの認知状況、問 34 介護保険のしくみについて、知っていた内容はどれですかの回答で、“高齢者の相談窓口として「地域包括支援センター」が市内 5 か所に設置されている”これを知っていたかたが、たった 15.6%というのが少しショックだった。というのは、アンケート最初の年齢構成をみるとわかるように、50 歳以上が 42.4%、介護保険は 65 歳以上だけではない。特殊疾病 16 種類は 40 歳以上からだし、70、80 の親御さんを抱えているかたは、当然、今 40 代、50 代になっている。介護保険だけじゃなくて、高齢者の様々な相談窓口は、市役所でも悪くはないが、基本地域包括支援センターのはずなのだが。東村山市は市民活動がかなり活発に行われている市という思いがあるので、なおのこと地域包括支援センターはもう少し周知されるように頑張ったほうがよいと思ったがいかがか。

●事務局

介護保険のしくみのところでは、事務局も数字に注視している。今回 15.6%という数字は、P66 下に前回との比較図がある。前回から比べると約 2 倍に増えている。これまですごく低かったものが少しずつ周知されてきたと感じられる一方、まだまだ低いというところで、どのあたりに違いがあるのかクロス集計して考えてみた。年齢構成別でみると、ご自身または、ご自身の親が介護状態になる 40 代、50 代のかたの認知度が高くなっている。ご自身に関係してくる年齢で高くなってきていることが傾向として見られる。また、現在集計中の 65 歳以上の調査については高齢介護課で集計しており、3 月末ごろ集計結果が出る予定だが、そこと照らし合わせながら今後の周知体制を考えていきたい。

●部会長

他にご意見、ご質問あるか。

●事務局

本日欠席の委員から事前にご意見をいただいているので、発表させていただく。
計画の中でアンケート調査についてまとめていただいて感謝している。調査結果の中に、市の施策が多く記載されている。この調査を行なったことにより、市民のかたに市の施策を知っていただけたのではないかと感じている。

●部会長

次に、母子分野について

○母子分野について資料2を基に説明

●事務局

P3、属性のところだが乳幼児の保護者300名、小学生3年生の保護者400人、中学生(本人)500人合計1,200人が対象者となっている。乳幼児176人、回収率にして58.6%、小学生228人回収率にして57%、中学生236人、率にして47.2%の回収率となっている。

P7、Ⅱ妊娠・出産・産後(乳幼児保護者調査)(1)最も不安・心配が大きかった時期、「特になかった」40人、22.7%でした。裏を返すとそれ以外のかた135人のかたは不安や心配を抱えていたということになります。

P8、(2)不安や心配の内容について「お腹の中の赤ちゃんのこと」が70.4%、「産後の育児のこと」が25.9%と赤ちゃんに関する内容が多い。また、P7の(1)最も不安・心配が大きかった時期の「妊娠初期(妊娠5か月未満)」という回答が過半数ということから、安心して妊娠期を過ごしていただけるよう、専門職が早期に関わることが非常に重要ということがこの調査で伺える。

P9、(3)悩みや不安についての相談先については、「夫・パートナー」が79.5%と最も多く、「実父母」「友人・知人」が続いており、多くのかたが相談できる状況であった。また、相談先として「保健師」3.4%「助産師」が8%ということで、行政としてはこの数値を少しでも増やしていきたい。

P10、(4)産後1か月までの協力者について、「実父母」「夫・パートナー」が多いことがわかった。一方では「協力者がいなかった」が3名いることがわかった。産後のホルモンに変化、子育てに順応する大切な時期であるので、産後1か月までの協力者は当然いたほうがよいと考えている。今後協力者がいなかったと実感しているかたに対する支援の充実が行政としては重要な課題であると考えている。

P12、(5)「マタニティーブルー」の有無について、半数以上のかたが実感していることがわかった。4割のかたがマタニティーブルーは「特になかった」と回答している。日々妊産婦と面談をしている中では不安や心配が多いことを実感している。今回の調査は5歳児までの保護者を対象としているため、子どもの年齢が高くなるにつれ、妊娠から出産後1年くらいの体験や実感が薄らいでいると思われる。本アンケートを整理してまいりたい。

P13(6)「マタニティーブルー」への対応について、「誰かに話を聞いてもらう」という回答が最も多く47.1%だった。妊娠中に保健師や助産師と妊婦面談をおこなう早い時期から出会うことで、医療機関への受診の必要性を査定できることから、そのかたに合った助言ができる。引き続き妊婦面談を推進し、この計画に盛り込んでいきたい。

P18 小学生保護者、中学生に対する調査、子どもたちの生活習慣 (2) 朝食の状況、「毎日食べる」小学生 96.1%、中学生 88.6%と高い数字が出ている。

P19 文中、中学2年生の「ひとり」の割合は9割でなく3割に修正。

P26IV子どもの病気やけがなどへの対応 (小学生保護者調査)、(1) 子どもの病気・けがの時の心配なことについて、「受診すべきか否かの判断がつきにくい」46.1%と最も多く、「夜間や休日に病気になった時にどこに行ったらいいかわからない」が20.6%ということで、今、小児初期救急診療#8000、東京消防庁#7119が、相談先としてある。適切な相談助言により少しでも救急出動を抑えるといったことになっている。こちらの周知についても行政として啓発していきたい。

P27(2) かかりつけ小児科医の有無について、「いる」が市内、市外合わせて90.4%

P29 (5) かかりつけ歯科医の有無について、「いる」が市内、市外合わせて91.7%
かかりつけ医、歯科医とも90%以上であった。

P31V健康に関する調査 (中学生調査) (3) たばこの身体に及ぼす影響の考えについて「害があると思う」が97.0%と高い。(4) 飲酒の身体に及ぼす影響の考えについて「害があると思う」59.3%ということでたばこに比べると低い。

P33 (5) 「危険ドラッグ」等の言葉の認知状況について、「知っている」が98.3%と非常に高い。(6) 「危険ドラッグ」等の使用についての考え「どのような理由であれ絶対に使うべきではないし、許されることではない」という回答が94.9%であるが、「使うかどうかは個人の自由である」が7人いることがわかった。

P34 (7) 性感染症について知っていること「知っていることはない」が66.1%、
P35 (8) エイズについて知っていることについてでは、「知っていることはない」が42.4%となっており、この辺の知識については十分に行渡っていない。

P36 (9) 妊娠・出産について知っていることについて、「妊娠から出産までの経過について知っている」56.8%と過半数に達している。次いで「言葉は漠然としたイメージしかわからない」と回答した生徒は、「妊娠」については33.5%、「避妊」については21.2%だった。

P38VI子育て中のこと等 (1) 悩みや不安が大きかった時期については、「1~5か月未満」が27.8%、「1歳~2歳未満」27.3%と続いている。

P39 (2) 子育てに関する困りごと・不安、悩みの内容について、乳幼児保護者調査では、「育児のこと」56.2%「子どもの発育や発達のこと」52.6%という回答がともに過半数に達している。同じく、小学生保護者の調査では、「日常生活のしつけや生活習慣に関すること」35.5%、「子どもの人関係について」28.5%であった。

P40 (3) 日頃気になること・悩み (中学生調査) 「勉強のこと」が56.8%、次いで「将来や進路のこと」が49.2%、「自分の健康のこと」11.0%で、具体的にどのような健康問題を抱えているのか、中学生なので今後調査等して考えていきたい。

P45 (5) 心配や悩みがあったときのサポート等について (中学生調査)、「いない」2.5%「どちらともいえない」12.7%、無回答が2.5%だった。健康面や思春期の変化を含めた悩みがある時期であるため、この合計17.7%のかたに対するアプローチについて検討していきたいと考えている。

P52 (9) 市の事業で今後充実させてほしいこと、あったら良いと考えるものについて、「予防接種に関すること」が26.7%、「妊産婦の支援に関すること」22.2%で、この2つについては核となる事業になるので、今後も十分検討していきたい。説明は以上。

- 部会長
ご質問、ご意見あるか。

- 部会長

私が気になったのは、P31(2)体形に関する今後の意向で、女子の74人、56.5%が「やせたいと思う」と回答している。本当に太っていて「やせたい」と思っているのならば、数字的にみても他人が見てもバランスが取れているのに、それでも「やせたい」というのであると、歳をとってから様々な健康障害を考えるとどうなのかと、ここがかなり気になった。他の皆さんはどうか。

- 委員

意見等特になし

(2) グループインタビューについて

健康分野について当日配布資料1を基に事務局より説明

- 事務局

一般調査とは別に地域で保健活動をおこなっている保健推進員に集まっていたき2月1日にグループインタビューを行った。率直なご意見をいただくために所管職員は同席せず、コンサルティング事業者が実施した。内容の報告は事業者より行う。

- コンサルティング事業者

テーマを4つ設け、これについて忌憚のないご意見をいただいた。いくつか報告する。

- 保健推進員として活動して良かったこと

- ・自分自身の健康について考えるようになった。
- ・男性は特に働いている間は地域との関わりがなかったが、地域の多くのかたと知り合い、ふれ合えるようになり根をおろすきっかけになった。更には、感謝の言葉をもらえるようになって、推進員自身が生きがいになってというように好循環を繰り返している。

- 活動して課題と感ずること、およびそれに対する改善策について

- ・行事への参加者が少ない。
- ・測定会は人気があり集まるが、行事や講演会にもう少し足を運んでくれる人がいたら
- ・前回調査時のインタビューでも出た意見だが、保健推進員の集まり以外にも例えば包括支援センターでの行事で、似たようなテーマ、切り口でやっている講演会が多々あり、お客さん、講師を悪い言葉でいうと取り合っている状況がある。もう少しこれらを合同でやるとか、整理するなどして効率的にすすめられると良い。

- 健康寿命の延伸のために、必要だと思う取り組み

- ・「コグニサイズ」「ふまねっと」などいろいろやっている。衰えは下半身からくるということが言われているので、万歩計をつけて歩くということに力を入れて自身や高齢者のかたにも是非にという意見がたくさん出ていた。

- 市への要望など

- ・入所施設に入ってしまうとそのことによって、認知症が進む人が多いというこ

とを実感しているなので、入所の必要が生じないように予防策に力を入れて取り組んでほしい。

- ・「1に運動 2に食事 しっかり禁煙 最後にクスリ」というスローガンを掲げているのに市役所の喫煙所が出入り口のすぐそばにあり、通る人が受動喫煙している。いろいろな人の意識を高めていく必要がある。
- ・所管の関係で行事が縦割りになるのであれば、課を超えた連携を強めて、行事のダブリをうまく解消してほしい。

母子分野について当日配布資料1-2を基に事務局より説明

●事務局

2月18日実施の「土曜日ハローベビークラス」に参加した12組の中で、8組にインタビューの協力をいただいた。

●コンサルティング事業者

市の公式行事の後にオブザーバーとして聞かせていただいた。6つのテーマの中から、いくつか報告する。特に第1子のお母様とパートナーのかた、不安が大きい。3つめの「妊娠中の相談先」というところで、夫3人が1位、実家の母2人、隣近所2人と続いた。配偶者、パートナーが聞いてくれなければ言うところがないという状況も見て取れた。実家のお母様も多く、同居、近居であればいいが、遠いと出産される若いお母様は心配、不安があるというところで、とにかくサポーターをできる限り多くすることが課題である。夫と妻のワークライフ・バランスについていわれているところだが、実現していくのは難しい。父親は、平日、深夜まで仕事をしているので、子育てに関わっていないとか、職場の雰囲気ですぐ帰ることが難しいなど課題が出ていた。「安心して妊娠・出産をするために必要だと思うこと」では、保育園の入園時期を4月に限定しないでほしい。入園できなかった場合、翌年までの1年間仕事ができなくなる。という意見が出ていた。

●部会長

グループインタビュー「健康分野」、「母子分野」で何かご意見あるか。

●委員

特になし

(3)「地域保健計画・健康ひがしむらやま21」進捗状況及び「母子保健計画」進捗状況について

●資料3、資料4を基に事務局より説明

●部会長

最初に、「地域保健計画・健康ひがしむらやま21」の進捗報告で何かご意見はあるか。

●部会長

各種健康相談の充実で歯科相談。8月を除く全11回で12人というのはもったいない。具体的にどのように相談をしているのか。

●委員

毎月1回水曜日の午後1時半から、事前に予約を取って健康増進課の相談室で相談を行なう。実績からだいたい1回につき1名ということになるが、市民の歯科に対する悩み事がないということなのか、相談したくてもわからなくて埋もれてしまっているのかわからないが、現状はそのようになっている。

●部会長

広報はどのようにされているのか

●事務局

毎月市報に掲載する他、市のホームページ、年1回全戸配布している健康ガイドで周知している。

●部会長

平成28年度の特定健診の対象者はどれだけいるのか。受診率が悪いと国保のほうにペナルティがくる制度ではなかったか。

●事務局

対象者として抽出している数は、28,647人。ただし、異動が出ているので、3月末でないと確定しない。

●部会長

半分くらいはいきそうということか。

●事務局

はい。

●部会長

他に質問等あるか。

●委員

認知症サポーター養成講座について、「小学生向けの認知症サポーター養成講座」があるが、今までの高齢者体験なのか、それとも何か違うことをしているのか。

●事務局

27年度から小学校に協力をいただいて、5、6年生を対象に小学生向けの講座を始めた。10年後、高齢者が増える時期になっているため、丁度この講座を受けた児童たちがその頃20歳を超える。将来、こういうことが大きく広がるということに理解を深めてもらっている。実際に高齢者のかたに来ていただき、困っていることや、足腰が痛い、耳が聞こえにくいなどの話を聞いたり体験をしてもらったり、また、ゲームを通じて物忘れとはこういうことで、体験を通じて、児童たちに、自分たちなら高齢者に対して何ができるかについて、グループワークを行なう。講座は45分を1時限とし、2時限行っている。グループワークスタッフは20人くらい必要だが、包括支援センター、市の保健師の人数では足りないため、今年までは3校の実施にとどまったが、地域の一般市民で養成講座を受けていただいたかたにボランティア

に入ってもらい、グループワークのファシリテーターをしていただくことで、少し回数ができるようになった。来年度以降は市内のご協力いただける小学校全てに伺える予定。

●委員

自殺対策のところで、民生委員の方で所管課の依頼を受け「高齢者の心の相談窓口があります」という紙を配布している。確か、東村山市は高齢者の自殺率が高いというのを聞いた気がする。自殺予防月間に合わせて「心の健康講座」を開催とあるが、ここに参加した人はいたのか、どのような内容だったのか。今年もチラシを配布するときの参考にさせていただきたい。

●事務局

「心の健康講座」の内容ですが、自殺されるかたは気持ちの落ち込み、うつ状態から自殺に追い込まれるということが非常に多い。うつの状態がどのようなものなのか、周りが気づくにはというようなことを学ぶ講座。ヨガの呼吸方法「わらいヨガ」の講座も行なった。

●委員

一人暮らしと世帯の関係で心のバランスが崩れることがあると思う。調査報告にもあったが、世帯のかたが安定している。配偶者を亡くして一人になってしまった時が怖い。民生委員をしていて自分の管内で知っているかたが亡くなると、1か月くらい経って「お元気ですか。どうですか。」と訪問している。情報が入ってこないと訪問することができない。そういう情報があると、必ず伺えるのだが。そのあたりはいかがか。

●事務局

高齢介護課で一人暮らし高齢者名簿、高齢者世帯名簿を持っていて、高齢者世帯でどちらか一方が亡くなって一人暮らしになったという情報は把握をできていると聞いている。その上で、タイムラグがありながら民生委員に情報をお渡ししているという状況かと思うので、今日のご意見を高齢介護課に伝え改善できるのかどうか所管で話し合っていたらと思う。

●部会長

高齢者世帯でどちらかが亡くなった場合、残されたかたが、抑うつ状態になるおそれがある。毎日ではないが、訪問看護ステーションに勤めていて、年間30人くらいの看取りをする。そうすると「グリーンケア」といって亡くなられてもうお客様ではないのだが四十九日を過ぎたころ、「その後お変わりないですか。お参りさせてください」と訪問している。相手の状況によって、また半年後、1年後ということもある。地域で頻繁に声をかけてあげたら孤立が少なくなるのではないかと仕事の上では感じている。なんでもかんでも民生委員さんにやってくださいというのも過重労働になって言いにくいのだが、何も知らないかたが「こんにちは」と伺うのも受け入れる側が困惑するので、「グリーンケア」までいかななくても声をかけるだけでも違うと思う。

●部会長

次に、「母子保健計画」について何かご意見あるか。

●委員

特になし

4. 報告

(1) 平成 29 年度の予定について当日配布資料 2 を基に事務局より説明

(2) 平成 29 年度新規事業について

●事務局

(5 がん・3 がんセット検診について報告)

女性は胃がん・大腸がん・肺がん・子宮頸がん・乳がんの 5 がん、男性は胃がん・大腸がん・肺がんの 3 がんを 1 日ですべて受診できるセット検診を 2 期に分けて実施した。1 期目が 7 月 6 日、7 日、8 日、11 日。2 期目が 9 月 6 日、7 日、8 日、9 日の全 8 回。各日定員 30 人で、1 期目、定員 120 人に申込者は 5 がん 292 人、3 がん 147 人。2 期目、定員 120 人に申込者 5 がん 212 人、3 がん 113 人。受診票発送数は、1 期目、124。5 がん 77、3 がん 47。2 期目、125。5 がん 88、3 がん 37。受診者数が 1 期目 116、5 がん 70、3 がん 46。2 期目、119。5 がん 83、3 がん 36。受診率は全体で 94.3%であった。

(胃がんリスク検診について現在までの状況を報告)

ヘリコバクターピロリ菌の胃粘膜感染と、ペプシノゲン値による胃粘膜の萎縮度を血液検査することで胃がんになりやすい状態かどうかのリスクを分類判定する検査について、平成 26 年度から医師会と検討してきた結果、今年度検討会の中で名称についても検討した結果「胃がんリスク検診」として実施した。対象は 50 歳から 74 歳までのかたで、リスク判定が困難もしくは治療が優先されるという、ピロリ菌がいると診断されたかたなど、7 つの項目に該当するかたをのぞいたかた。定員 500 人で募集をし、申込は 355 人 71%だった。市内の消化器内科を専門とする 11 医療機関で、11 月～12 月に実施した結果、受診者 306 人申込者の 86.2%だった。受診結果の内訳、胃粘膜萎縮はなく胃がんの発生リスクは非常に低い A 群が 192 人、62.7%。胃粘膜萎縮の可能性のある陰性高値群、B 群、C 群、D 群が 114 人、37.3%だった。受診後 A 群に対しては胃 X 線検査等での検診を勧めているが、市では胃 X 線検査等の胃がん検診の確認ができなかった 133 人に対し、3 月実施の胃がん検診の受診勧奨を行なった。結果 16 人が申し込んでいる。その他の陰性高値群、B 群、C 群、D 群については検診後に胃内視鏡による精密検査が必要という判定になるが、医療機関での精密検査の受診勧奨をした結果、現時点で 114 人中 57 人 50%の受診がある。内、55 人はリスク検診を受診した医療機関で受診している状況である。説明は以上。

●部会長

数字に関心があるので、口頭報告でなく資料として 1 枚いただけるとよかった。

●事務局

(ゆりかごひがしむらやま事業について)

今年から妊産婦への支援を充実させその後の切れ目のない支援を充実させている。今年度は、事業に関わる専任の保健師を補充し、助産師、保健師、臨時職員で人員体制を整え事業実施している。妊産婦の支援でどこを充実させていくのかとい

うと、母子健康手帳を受け取る時からこの事業が始まると考えているので、妊婦面談で市の職員と面談をする率を上げていくことを目標に掲げている。実施率は、今回子育て応援ギフトの配布や、母子保健コーディネータが定期的に電話するなどして直接対面で面接をしたかたは、平成 28 年 12 月末時点で 90.9%であった。母子健康手帳交付数が 733 件、そのうち面接できたかた 666 件。27 年度と同数字から考えると、妊婦面談率が 79.8%だったので、この事業を開始したことにより専門職と直接お話ができていたかたが、11.1%上昇しており効果が上がっている。面接率を上げることによって市の専門職とのコミュニケーションをとる機会を増やすことで相談しやすい環境の整備、困った時に声を上げてもらう形がよりできてくると考える。

(妊婦歯科健診について)

今年度より、保健センターに集まって実施する集団健診から、地域の歯科医療機関で受診ができる個別健診に形態を移行した。これに伴い 27 年度集団健診受診率 10%に対し、28 年度は 12 月末現在で受診率が 34.8%まで向上している。母子健康手帳の交付数が 733 件で受診者数が 255 人まで増えている。受診率が上がることによって妊婦の口内の疾患予防につながることは勿論のこと、かかりつけ歯科医を持つ機会にもつながっていると思っている。歯科医師のご協力に感謝している。

●部会長

何か質問はあるか。

●委員

特になし

5. その他

●健康増進課より平成 29 年度新規事業について説明

(自殺対策事業)

自殺対策の一環として実施。「心の体温計」の導入を行う。これは、携帯電話、スマートフォン、PCからそのページにアクセスして、いくつかの質問に答えると心の状態がわかるというソフト。自分の心の状態を知ってもらい、心の状態が落ち込んでいるかたについては、相談機関の一覧も掲載しているので、相談機関へつなぐことができるようになっている。

(がん検診推進対策事業)

がん検診の受診率をこれから上げていくが命題となっているので、まずは、市民への意向調査をさせていただく。こういった形であれば検診を受け易いか。なぜ検診を受けないのかなどの調査を行ない、市民のかたのがん検診に対する意向について情報収集するとともに、どういう人に勧奨をすると有効なのかも検討する。その他に、検診の精度管理向上も行っていく。

●子育て支援課より平成 29 年度新規事業の説明

(産前産後サポート事業)

産前産後サポートともう 1 点、「妊娠出産子育てガイド」を作成し、母子健康手帳交付時に妊婦面談で配布する予定。こちらは、広告収入で作成する。内容は、妊娠

期からの体調管理や出産の経過、育児の始まりについてそのかたの経過を書き込めるものを考えている。妊婦面談の場面でも助産師、保健師と一緒に健診の時期やサポート体制、過ごし方や必要な支援についてプランを立てて具体的に考えていけるものとした。現在の核家族化や地域での支援モデルがない中で、育児不安が強いかた、子育ての支援が得られないかた、多胎妊娠のかたで産後の負担感の強いかたへの「産前産後サポート事業」として、東京都の妊娠出産包括支援事業の補助金を用いて実施予定となっている。アウトリーチ型として必要と認められたかたに対し、助産師が自宅を訪問し不安の傾聴や育児を実際に一緒に行なってアドバイスをする事業を検討している。妊娠から出産後6か月まで最長4回まで実施する予定。また、参加型として双子のかたが増加している現状もあるので、双子の会「さくらんぼの会」を年3回実施予定。29年度は支援の手立ての充実を推進していきたい。

●部会長

全体を通して何かあるか。

●委員

仕事で、現場の中学校で働いている。子どもたちを見ていると愛着形成に障害がある子たちが非常に多い。その結果、いじめにつながったり、虐待を受けていたり、非常に心の健康を害している子どもたちが多くいる。今、出された様々な制度が生きて働くかどうか、重要なポイント。例えば、相談機関、相談するという時は、悩みに悩んで相談に行く。その時、電話が事務的だったり、暗い声でもう二度と掛けたくないと思ったり、担当者につながるまでものすごく時間がかかったり、というようなことであきらめてしまう親や子どもがかなりいる。私としては、この計画の中で「母子保健計画」が重要だと考えている。これこそ未来への投資だと思っている。ここに様々な、お金もそうだし、様々な人の気づきや配慮が無いと、これから先、非常に苦しくなってくると考えている。心が健康であれば、自らいろいろなことをしようとするエネルギーを持てる。傷つきながら子どもたちは育っていくのだけれど、傷ついた時のレジリエンスの力もついてくと思う。新しい命が宿った時に、その前から、支援・配慮が必要と考えている。そのためには教育なのだが、今学校現場は教えなくてはいけないことの量が膨大で、限られた時間の中では教えることが難しい。その部分を根本から精査しないと、制度が生きてこないと感じている。まとまりがないのだが、現場で感じていることを述べた。

●部会長

今の話は大変重いものである。これは、市役所だけがやればよいことではない。ここに来ているかた、地域で生活しているかたは勿論だし、先ほどから面談や訪問といったことについて、保健師の技量がどこまであるのかという思いも持ちながら聞いていた。頭は非常にいいかたが多いが、保健師が大学制度になってから、生活の幅と深さが無いかたたちが、知識だけで保健師業務をやっているかたが少なくない。そのあたり懸念をしている。相手の立場になってものをまず受け止める度量があるのかなのか。ご自分に自信がないととかく説教調になってしまう。そのあたり地域担当制はもちろん大事だが、困ったケースがあったら、職場でもグループでお互いにサポートし合って本当に相談のあるかたの相談にのってあげられたらいいなという思いがある。

●委員

28年4月から介護保険法が変わって、介護まではいかない要支援のかたへのサービスが変わって、70～80人くらい市の講習会を受けさせて体制が整っているのだがその先が進まない。先ほど地域包括支援センターの話も出たが、そのあたりどのように管理されどのように活動していけばよいのか戸惑っている。

●部会長

来月4月から要支援のかたたちへのサービス提供の仕方が変わるはずだが、東村山市ではどうなのか。

●事務局

ご承知のとおり、29年4月から介護予防日常生活総合支援事業、一言でいうと高齢者のかたが高齢者のかたを支えていくというような新しい事業が始まり、要支援1と2のかたが基本的には介護保険から外れる。簡単な日常生活を支援するヘルパー的な事業ができるようになった。今委員がおっしゃったように、東村山市でもシルバー人材センターにその部門を委託させていただきながら進めているところ。とはいっても国全体としても始まったばかりの事業なので手さぐり状態であるため、今後そういった理念をいかに形にしていくかが、市に課せられた大きな課題と捉えている。

●委員

どうやってPRしたらいいのか。そのあたりを勉強しないといけないと思っている。

●部会長

高齢者、高齢者というが、介護認定を受けているかたは20%っていないのでは。少なくとも8割の高齢者のかたは元気なかた。仕事を持っているかたもいると思う。

6. 閉会

(子ども家庭部次長)

本日の会議の中で、いろいろなご意見を伺い親御さんにしても高齢者にしても顔見知りの関係を築くことが非常に大切であるということを感じた。これから情報が届きにくいかたたちへどうやって届けていくかということも課題と認識している。地域でご活躍されている皆さんも我々の情報発信の一つとして一緒にご尽力をいただき、結果として地域力が高まっていくことが必要なことと思っている。2年間という長きにわたり委員を務めていただき感謝申し上げます。こうして顔見知りの関係ができたので、できれば次期も継続していただければというのが我々の思いである。皆さんのお力をいただきながら市も頑張っていきたいので今後ともよろしく願いしたい。

以上